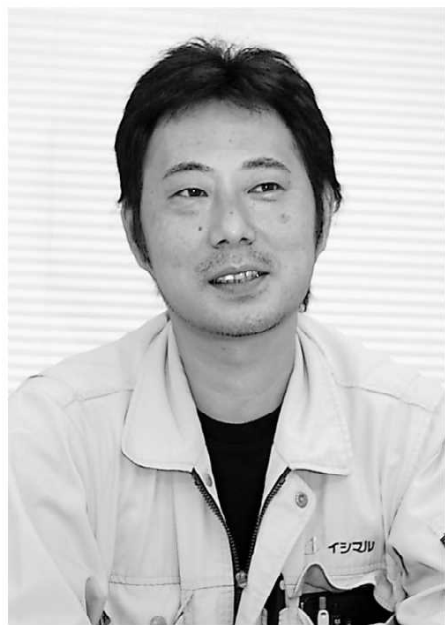


「特集 建設分野の魅力」 第21回

暮らしを守る構造物



株式会社イシマル
河上 良さん

寸法やデザインなどを自由に選べるオーダーメイドの建具に携わるのが木製建具工。河上さんはマンションや公共施設などに設置する扉の設計・デザインなどを担当する。社内職人に製作を依頼し、設置の際は一緒に現場に向いて現場管理も行う。

木製建具工

積極的にデザインを提案

本店が神戸市内にある河上さんの会社は、100年ほど前に創業。ふすまや障子などの「和」から引き戸やクロゼットドアなどの「洋」へと時代の変化とともに扱う建具も変わってきたが、変わらない着実な仕事ぶりに信頼して依頼してもらっているのが喜び。「図面を引く自分に大きな責任があると感じる一方、自分から積極的にデザインを提案して喜んでもらえることでやりがいを感じる」と河上さん。



木製の室内扉を設計するため、現場で採寸する河上良さん。建具が設置されれば、建物の完成も間近だ

道路や橋、病院や学校、マンション…。人々の生活を守り、快適にする構造物を造り上げていくのが建設業の仕事だ。一つの構造物が出来上がるまでには、さまざまな職種の、多くの作り手の力が必要となる。職人たちは自分たちの持つ技術を生かし、どんな思いで工事に携わっているのか。宝塚市で建築中の兵庫県発注の宝塚健康福祉事務所・阪神シニアカレッジの工事現場で活躍する7人に聞いた。

(取材協力=兵庫県建設業育成魅力アップ協議会)



今年3月に供用開始予定の「宝塚健康福祉事務所・阪神シニアカレッジ」新庁舎の完成予想図

兵庫県発注の宝塚健康福祉事務所・阪神シニアカレッジの工事現場を訪問

宝塚健康福祉事務所・阪神シニアカレッジ建築工事 福祉部門、保健部門、検査部門が3カ所に分散していた兵庫県阪神北県民局の宝塚健康福祉事務所の組織連携と老朽化の解消を目的に移転整備。阪神間に園芸、健康、国際理解、ひと・まち創造の学科・講座が点在して運営が非効率だった阪神シニアカレッジも集約した。鉄骨造4階(一部5階)、2019年3月に供用開始予定。



株式会社テック・エムディ
三和 恵大さん

石こうボードを使い、部屋を分割する間仕切り壁や天井の最終仕上げを行うのが内装工の仕事。会社がある姫路市を中心に学校や福祉施設などを手掛けることが多く、「ものづくりを通じて地域貢献できることにやりがいを感じる」と仕事の魅力を語る。

金属・内装工

ものづくり通じ地域貢献

不動産会社で7年間営業マンをしていたが、父親が営む会社を継いだ。3年前に転職。前職での建物管理の経験を生かし、「何年使えば建物がどうなるかなど、維持管理の視点を踏まえながらもものづくりに取り組んでいる」と話す。



職人が張った内装の仕上がりを点検し、スケジュール通り進んでいるかを確認する三和恵大さん

株式会社インテリアシオイリ
塩入 裕介さん

全国的な新築やリフォームの現場にチームで出掛け、壁紙のほか床にタイルやカーペットを張る。創業した父親の後を継いで5年前から会社の経営に携わるようになったが、今でも現場にはよく足を運ぶ。大きな壁紙を貼る作業は手際よく付ながら「人がよく目にする部分なので、きれいになったね」と声を掛けてもらえることにやりがいを感じる。

内装工

顧客目線でプラスα模索

美しく仕上げただけでなく、納期を守ることも最低限のルール。壁紙張りに行つた沖繩の現場で防炎ラベルを貼り忘れ、消防検査の前日に指摘されたことがあった。「ラベルを申請して貼るのも大事な仕事のうちで、携わった以上責任を持ってやり遂げなければならぬ」。防炎ラベル1枚を貼るために、急ぎよ飛行機で沖繩へ飛んだ苦い経験は忘れられない。



壁面にクロスを張り、刷毛でしわを伸ばす塩入裕介さん。人の目につきやすい部分だけに、丁寧な仕事が求められる

進化続ける腕と技術

現場の7人に聞く



北川瀝青工業株式会社

緒方 翔平さん

建築現場では屋根や排水部分など防水工事が必要とする部分が多いが、それぞれ異なる専門技術が必要となる。緒方さんが担当するのはシーリング工事。建物の継ぎ目、建物と窓枠の隙間などに特殊な樹脂を充て込んで雨水が侵入するのを防ぐ仕事は「地道だが、建物の防水性を高めるために絶対に必要」と胸を張る。

地道だが絶対必要な仕事

シーリングする場所とそれ以外との境界をマスキングテープで保護する養生から作業はスタート。次にシーリングする場所に詰め物をして厚みを調整。現場で2種類のシーリング剤を混ぜてコーキングガンと呼ばれる工具に入

れ、一定の幅と厚みを保って充てんする。同じ現場は一つもなく難しいが、スピードと正確さの両方を身に付けてこそ一人前。「仕上がりで職人の腕が分かる。腕がよい職人だと周囲から認められるよう頑張りたい」と意気込みを語る。

この現場のシーリング工事は全て、同会社の3人が担当。通信制高校に通いながらこの道に入り5年目を迎える緒方さんは3人の中で

最も若手で、40代のリーダーの指示を受けて仕事に励む。「怒られることを嫌だとは思わない。自分が気づかないところを指摘してもらえば、もっといい仕事ができるようになるから」。最近では成長をほめてもらうことが増えた。これからどんどん腕を磨いていつかはリーダーを目指したいと意気込みを語る。

「どんなものでも、作りましますよ」と語る土居さんの仕事は、インテリアショップなどで扱う量産家具とは異なり、顧客の意見や現場に合わせて精密な図面を描き、職人とともに特注家具を作り上げていくことだ。完成品の設置に立ち会い、現場の管理も行う。この現場ではトイレに設置する収納棚に携わった。

現場では電線や排水管と組み合わせて家具を設置することもあり、他業種の職人と折衝することが多い。「正確に図面を描いたつもりでも、いざ設置に行くと想定外の問題が発生することがよくある。そんなとき現場でどう対処するかが大事」

社内では、職人と二人三脚で仕事を進める。やり直しが発生しないように、職人の意見を理解しながらこちらの意見もうまく伝え、思いを一致させる。「そのためにはもっと知識や経験を積んで、自分の引き出しを増やすことが一番」と考えている。

元々空間デザインに興味があったことから、建築の専門学校を経て、造作家具などを専門とする地元の会社に就職した。設計課の5人のうち女性ばかり4人と多い。男性が多く



窓枠と本体の間にシーリングを打つ緒方翔平さん(手前)。グループのリーダーが作業を見守る

防水工



立建設株式会社

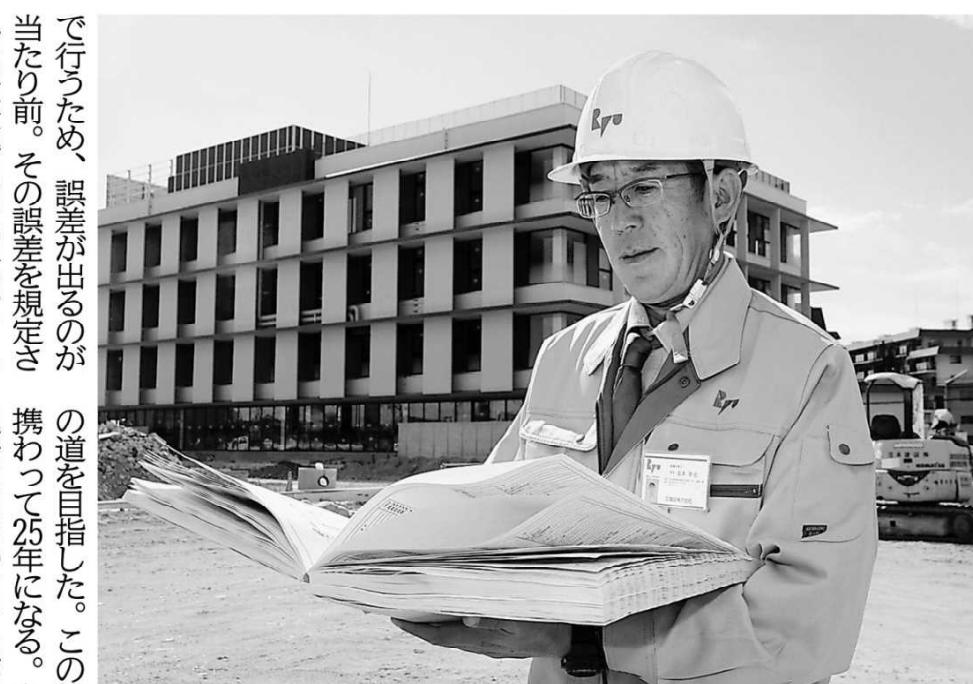
坂本 栄治さん

現場監督の仕事は、設計図を読み解き、実際に作業するための施工図を作成することから始まる。これまでの経験から想像力を働かせて、安全で効率的な施工方法を導き出す。それでも工事は人間の手

多業種の関わり面白さに

で行うため、誤差が出るのが当たり前。その誤差を規定された許容範囲内に収め、さらに精度よくゼロに近づけるか。それを考え、指図を出すのも現場監督の役割の一つだ。「多業種が関わる部分の判断は特に難しいが、裏を返せばやりがいや面白さもある」

幼少期に好きだった遊びは積み木やプラモデル。土木関係の仕事をしてきた父親の影響もあり、自然とものづくりの道を目指した。この仕事に携わって25年になる。多くの現場に関わってきたが、苦労した現場ほど記憶に残っているという。「携わった物が形となり、地図上に残るのが魅力。苦労したことを次の現場に生かそうと今もやっています。きついなあと思えるものづくりが楽しいと思える人にはきっと向いていると思う」と若い世代へ呼び掛け。



工事現場で指揮をとる坂本栄治さん。事務所から隣の現場へ、フットワーク軽く足を運ぶ

現場監督

橋工芸株式会社

土居 裕子さん

現場では電線や排水管と組み合わせて家具を設置することもあり、他業種の職人と折衝することが多い。「正確に図面を描いたつもりでも、いざ設置に行くと想定外の問題が発生することがよくある。そんなとき現場でどう対処するかが大事」

図面描き特注家具を製作

社内では、職人と二人三脚で仕事を進める。やり直しが発生しないように、職人の意見を理解しながらこちらの意見もうまく伝え、思いを一致させる。「そのためにはもっと知識や経験を積んで、自分の引き出しを増やすことが一番」と考えている。

元々空間デザインに興味があったことから、建築の専門学校を経て、造作家具などを専門とする地元の会社に就職した。設計課の5人のうち女性ばかり4人と多い。男性が多く

3K(きつい、汚い、危険)とも評される建設現場だが、「掃除の徹底や安全通路の確保、声掛けなどがきちん行われていて、一人一人の職人の安全意識の高さがよく分かる」と建設業に対する印象が変わったという。「建築物は職人の細かい作業と高い技術が結果したとても魅力的な作品。一品として同じものはない。一員として携われることに誇りを持ってこの仕事を続けていきたい」

自分が設計した棚を取り付ける現場で、図面を手に打ち合わせする土居裕子さん(右)



自分が設計した棚を取り付ける現場で、図面を手に打ち合わせする土居裕子さん(右)

家具工

株式会社安井組

花元 昭太さん

見栄えが良い化粧材を「見切り材」として壁に設置するのが、この日の作業。電気丸のこで現場に合わせたサイズに切り、仕上げ材が変わる境目を隠すように次々と付けていく。「1ミリ切りすぎると、仕上がりの美しさが違う。ここが腕の見せどころ」

一部屋丸ごと仕上げ作業

木造作工の仕事は、見切り材をはじめ、ドアや窓枠、カウター、部屋の枠組みづくりまで内容は幅広く、まさに「一部屋を丸ごと仕上げしていく仕事」と花元さん。「同じ部屋をつくるにも10人がいれば10通りのやり方がある。先輩の仕事ぶりを常に観察し、技術を盗んで初めて自分の成長に役立てることが出来る」

と、さらに腕を磨く。高校を卒業して会社員生活を続けた後、父が勤めるこの会社に転職。父親の元で3年間弟子修業をした。初めての現場では不安いっぱいだったが、黙々と働く父親の背中を見て込み上げてくるものがあり、「よし、ついて行こう」と心が決まったという。弟子生活を終え6年目となり、現場を一人で任せられることも増えてきた。「初めて一人で部屋を仕上げた時の感動は忘

れられない。今でもそのマンシヨンの前を通ると思い出す」

木造作工のなり手が少ないことに、危機感を感じている。「現場ではいろいろな職種の人と知り合えるし、興味を持った職に転職したって構わないと思う。やってみなさいことには良いも悪いもわからない。僕にでもきてくれるから誰でもいい」と笑顔を見せた。



壁面の仕上げ材が変わる部分に、見栄えが良くなるよう化粧材を設置する花元昭太さん

木造作工